令和元年度

地域防災の活動報告

令和２年３月

NPO 法人
ひょうご地域防災サポート隊

ご あ い さ つ

この原稿を書いている時点で、新型コロナウイルス問題で東日本大震災九周年追悼式が取りやめになり、また学校が休校になるなど、感染拡大防止策が進められています。この報告書が皆様のお手元に届く頃には、この問題が終息していることを願うばかりです。

そのような状況ではありますが、皆さまにはご健勝にてご活躍のことと拝察いたします。そして、私たちの防災・減災活動に、ご支援、ご協力を頂いておりますことに感謝申し上げます。この度、令和元年度防災活動報告をまとめましたのでお届けいたします。

私たち「ひょうご地域防災サポート隊」は、兵庫県を退職した技術職員が集い、平成 18 年 1 月に NPO 法人の認証を受けました。

私たちが県職員時代に遭遇した「阪神・淡路大震災」が活動の原点になっています。各自の持ち場で、「安全で快適なまちづくり、地域づくり」に取り組んでいましたが、技術の限界、想定をはるかに超える自然の力を思い知らされました。また、「公助」の限界も目の当たりにする一方、「自助」「共助」が命を守り、復興に大きな役割を果たすことを学びました。

このような経験を原点として「守れ、いのちを！」を合言葉に、各地域に出向き、兵庫県が作成した CG ハザードマップを活用するなど、それぞれの地域が内包する災害リスクを確認し、地域の方々と共に防災力向上や減災対策について考えてきました。

昨年度末に 3 名が退会しましたが、本年度は 3 名を新会員として迎えることができ、引き続き 22 名の会員体制で活動を行いました。

令和元年度は、平成 30 年度同様の酷暑に加え、全国的には多くの災害に見舞われました。

6 月 18 日には山形県沖を震源とする M6.7、最大震度 6 強の地震が発生し、津波高も 11cm が観測され、負傷者 43 名、半壊住家 36 棟の被害が出ています。（令和元年 7 月 31 日 12 時現在 内閣府） 奇しくも、平成 30 年の大阪北部地震と同月同日の発生です。

8 月 26 日から 29 日にかけて、前線と湿った空気の影響で九州北部地方を中心に総雨量が 600mm を超えたところがあるなど、記録的な大雨となりました。佐賀市で 110mm/h、平戸市で 434mm/24h、総雨量 626.5mm が観測され、死者 4 名、全壊 95 棟、半壊 877 棟の住家被害が出ています。がけ崩れ等の土砂災害は 171 件発生しています。（令和元年 12 月 5 日 15 時現在、内閣府発表）JR 佐賀駅の浸水被害がテレビ等で報じられました。

「令和元年房総半島台風」と命名された台風 15 号は、9 月 9 日 5 時前に強い勢力で千葉市付近に上陸、その後茨城県沖に抜けました。この台風は猛烈な風、雨をもたらし、特に千葉市で最大風速 35.9m/s、瞬間最大風速 57.5m/s を観測するなど、記録的な暴風となり、死者 1 名、全壊 342 棟、半壊 3,927 棟、一部損壊 70,397 棟の住家被害が出ています。（令和元年 12 月 5 日 17 時現在、内閣府発表）送電鉄塔の倒壊や倒木による電線切断等により、千葉県下での長期停電が大きな問題となりました。千葉市に住む友人も住家の屋根等が被災し、「避難の重要性を実感した」と漏らしていました。

静岡県、新潟県、関東甲信地方、東北地方を中心に広い範囲に記録的な大雨をもたらした台風 19 号は、「令和元年東日本台風」と命名されました。大型で強い勢力の台風は、10 月 12 日 19 時前に伊豆半島に上陸した後、関東地方を通過し、13 日未明に東北地方の東海上に抜けました。岩手県下閉伊郡普代村で 95.0mm/h、神奈川県足柄下郡箱根町で 942.5mm/24h、総雨量 1,001.5mm が観測され、また、東日本から北日本にかけての広い範囲で非常に強い風が観測されました。

死者・行方不明者は 102 名に上り、住家被害は全壊 3,280 棟、半壊 29,638 棟、床上浸水 7,837 棟、床下浸水 23,092 棟に及んでいます。国管理河川の 12 か所で堤防が決壊し、県管理河川では 128 か所も決壊しました。（令和 2 年 2 月 12 日 9 時現在、政府非常災害対策本部発表）

千曲川の決壊で北陸新幹線の長野新幹線車両センターが冠水するなど、各地の浸水被害が大きく報じられました。東日本大震災の津波被災地から内陸部に移転し、生活再建に努力されている方々を襲った非情な災害に、多くの人々が心を痛めました。

首都圏では、多摩川沿川での内水氾濫によりタワーマンションの地下の電気系統が浸水し、停電断水などが問題になりました。また、内水氾濫に対応するための排水樋門を操作できなかったことも問題視されました。

一方、利根川水系では、八ッ場ダムの約 7,500 万㎥　を含む 7 基のダム群での約 14,500 万㎥　の洪水貯留、渡良瀬遊水地等 4 つの調節池での約 2.5 億㎥の洪水貯留が江戸川沿川等首都圏の洪水防止に寄与したと言われています。また、首都圏の地下貯留施設が内水氾濫防止に大きく寄与したとの評価もあります。

台風 19 号のコースや被害の恐れは、襲来前から広く周知が図られ、交通機関の計画運休や大規模店舗等の計画休業等の措置が取られました。しかしながら、自動車で移動中の浸水犠牲者や逃げ遅れた方々を救助するヘリの報道等に見られるように、的確な避難行動が取られていればと悔やまれる事例も多くありました。一方、的確な避難が人的被害を防いだ事例も紹介されています。宮城県丸森町五福谷地区では、阿武隈川の支流が氾濫し、家屋 4 戸が流されるなど、大きな被害を受けました。しかし、住民は異常な大雨に危険を感じ、午後 7 時過ぎ十数人が集会所に避難した後、周辺の浸水に応じて、さらに高台の家に移り難を逃れています。（河北新報 2019.10.10 9:12）

頻発する災害とそれに伴う国、地方自治体等の防災への取組とも相まって、人々の防災知識は向上していると思われますが、「正常性バイアス」が働いて、的確なタイミングでの避難が行われていないケースも多いようです。この為、国でも情報提供のあり方検討をはじめ、的確な避難行動に結び付けるための検討がなされています。兵庫県では、「マイ避難カード作成支援モデル事業」により、適切なタイミングでの適切な避難行動に結び付ける施策を進めています。

私達も、防災マップづくり活動等を通じて、浸水や土砂災害危険区域等災害リスクのある地域にお住まいの方々が、いつ避難するか、その際どこにどう避難するかを事前に決めておくことは有意義かつ重要と感じてきました。「マイ避難カード」や「マイタイムライン」の作成をお手伝いできればと思います。

元号が平成から令和に変わった元年度の活動状況は、以下の通りです。

兵庫県阪神南県民センターの依頼を受けて、6 月 2 日、7 月及び 8 月の土、日、祝日に「尼ロック防災展示室」特別公開支援業務に携わりました。

また、伊丹市、南あわじ市賀集小学校、榎列小学校で地震対応について、宍粟市の旧一宮町、波賀町、千種町域で、河川の氾濫や土砂災害等に対する減災対策や命を守る行動について、参加者の方々と共に考えました。避難所運営訓練である HUG について南あわじ市避難所担当職員の方々と、また、明石市人丸小学校区の皆様と共に取組みました。

南あわじ市での視覚障碍者を対象とした避難についての講演、水防工法技術研修会での講師、さらに加西市、加古川市でも活動を行いました。

激化する降雨災害や発生が懸念される南海トラフ地震等を念頭に、最新の防災・減災対策の動向に関心を払いながら、研鑽を積み、地域の防災力向上に引き続き貢献して行きたいと考えています。

今後とも、当法人の活動につきまして、各位のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和 2 年 3 月吉日

ひょうご地域防災サポート隊

理事長　井上俊廣

目次

Ⅰ．防災啓発活動（出前講座）　１

Ⅱ．防災啓発活動（防災訓練等支援）　４

Ⅲ．防災啓発活動（防災マップづくり等支援）１０

Ⅳ．防災啓発活動（防災展示室特別公開支援）２１

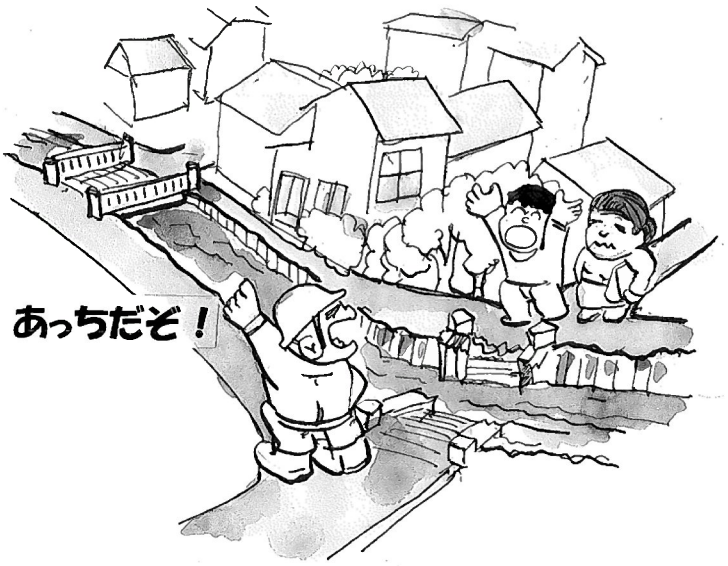
Ⅴ．その他の活動　２５

Ⅰ．防災啓発活動（出前講座）

私たちは、防災知識の普及啓発活動として、自治体等の依頼を受け、地域住民や自治体職員等を対象に２地区で、出前講座を実施しました。

実施地区一覧表

NO	開催日	活動内容	開催場所	担当者
1	R1.08.30	身体障害者社会学級「淡路青い鳥学級」教養講座「防災について」	洲本総合福祉会館	谷川　俊男 寺田　良幸
2	R1.11.17	加古川ベルタウン防災講演	加古川ベルタウン集会所	阿山　耕三 元井　賢一



１・身体障害者社会学級「淡路青い鳥学級」教養講座

１．依　頼　者　：　南あわじ市教育委員会社会教育課

２．開　催　日　：　令和元年８月３０日（金）

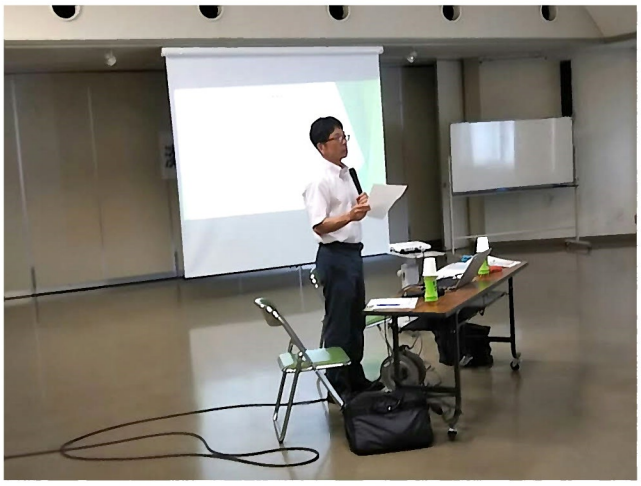
３．開 催 場 所 ：　洲本総合福祉会館

４．講演等の相手：
淡路青い鳥学級生徒１２名（ヘルパー１０名）
ボランティア５名

５．講　演　者　：　谷川俊男　（補助）寺田良幸

６．講 演 内 容 ：

１　あいさつ（南あわじ市教育委員会社会教育課）
２　防災講座
（１）災害の種類と概要
（２）危険情報の配信
（３）もしもの時
※クイズを交えて説明し、かつできるだけ双方向に進行



２・加古川ベルタウン防災講演

１．依　頼　者　：　加古川ベルタウン自主防災組織

２．開　催　日　：　令和元年１１月１７日（日）

３．開 催 場 所 ：　加古川ベルタウン集会所

４．講演等の相手：
　加古川ベルタウン自主防災組織　４０名

５．講　演　者　：　阿山耕三　（補助）元井賢一

６．講 演 内 容 ：

「我まちの自然災害の危険度」
１　大雨洪水災害
（１）最近の豪雨災害の特徴
（２）地球温暖化　温室効果の影響
（３）一級河川加古川は安全か？
２　南海トラフ巨大地震と内陸直下地震
（１）地震のメカニズム　なぜ内陸直下地震は頻発する
（２）加古川市周辺の活断層　⇒　内陸直下地震の巣
（３）地震から命を守るには　自主防災組織の役割とは

伊藤裕文東播磨県民局長　挨拶

Ⅱ．防災啓発活動（防災訓練等支援）

私たちは、地域の自治体等の要請にもとづき、水防活動の技術支援や、図上防災訓練への参加、避難所ＨＵＧの実施など、５地区において支援活動を行いました。

※避難所ＨＵＧとは、避難所運営をみんなで考えるためのもの。Ｈ（hinanzyo 避難所）Ｕ（unei 運営）Ｇ（game ゲーム）、HUG（抱きしめる、避難者をやさしく受け入れる）

実施地区一覧表

NO	開催日	支援内容	支援場所	担当者
1	R1.06.04	加東土木事務所 水防工法技術研修会	一級河川千鳥川 左岸河川敷（加東市）	谷田　登志晴 廣田　誠 元井　賢一
2	R1.06.19	丹波土木事務所 水防工法技術研修会	一級河川加古川 左岸河川敷（丹波市）	谷田　登志晴 井上　俊廣 窪田　彰
3	R1.07.09	南あわじ市避難所等 職員研修会（HUG）	南あわじ市役所第２ 別館多目的ホール	谷川　俊男 寺田　良幸 井上　俊廣 榊原　敏夫 林　健児 元井　賢一
4	R1.10.23	伊丹市防災図上訓練	伊丹市防災センター	井上　俊廣 釜谷　正博 阪出　裕昭
5	R2.02.16	明石市人丸地区防災訓練 （HUG）	人丸小学校体育館	谷川　俊男 井上　俊廣 榊原　敏夫 寺田　良幸 森脇　康仁

１・令和元年度加東土木事務所水防工法技術研修会

１．依　頼　者　：　北播磨県民局加東土木事務所

２．開　催　日　：　令和元年６月４日（火）

３．支 援 場 所　：　一級河川千鳥川　左岸河川敷
（加東市）

４．講演等の相手：

加東土木事務所・管内市町職員（１９名）
（一社）北播磨建設業協会（５９名）
参加者：７８名

５．講　演　者　：　谷田登志晴　（補助）廣田誠・元井賢一

６．講 演 内 容 ：

演習：

水防工法（縄結び、土のう作成、土のう積み工、シート張り工、木流し工等）の実地指導

２・令和元年度丹波土木事務所水防工法技術研修会

１．依　頼　者　：　丹波県民局丹波土木事務所

２．開　催　日　：　令和元年６月１９日（水）

３．支 援 場 所　：　一級河川加古川　左岸河川敷
（丹波市氷上町）

４．講演等の相手：

丹波土木事務所・管内市町職員（２５名）
丹波市建設業協会等（８５名）
参加者：１１０名

５．講　演　者　：　谷田登志晴　（補助）井上俊廣・窪田彰

６．講 演 内 容 ：

演習：
水防工法（縄結び、土のう作成、土のう積み工、シート張り工）の実地指導

令和元年6月21日　朝日新聞

洪水防ぐ術　官民学ぶ

丹波地域初の合同研修会

豪雨浸水　県想定域が1.5倍

加古川水系56.1平方キロ　時間も長く

土嚢を積む練習をする参加者ら＝丹波市氷上町氷上

丹波市月来に集合した、1千年に1度の豪雨を想定する大船よりも大きい豪雨を想定した浸水想定では、丹波地域はこれまでの1～10年に一度の大雨の想定だから最大面積が1・5倍に増え、浸水深も深くなる。

「丹波地域を流れる加古川水系の想定では、最大規模が36平方キロから56・1平方キロになる。最大の要因は、一級河川の加古川の流域面積が大きく、一級河川の流域面積が大きくなるほど、雨量が増えて、浸水深が深くなる。また、浸水面の拡大で、これまで水害時に問題で悩まされていた道路が使えなくなる恐れがある

３・南あわじ市避難所等職員研修会

１．依　頼　者　：　南あわじ市危機管理課

２．開　催　日　：　令和元年７月９日（火）

３．支 援 場 所　：　南あわじ市役所第２別館３F
多目的ホール

４．講演等の相手：

南あわじ市役所避難所担当職員等　２８名

５．講　演　者　：　谷川俊男・寺田良幸

（ファシリテーター）井上俊廣・榊原敏夫・林健児・元井賢一

６．講 演 内 容 ：

研修

⑴ 避難所開設・運営マニュアル　危機管理課

⑵ 阪神・淡路大震災時の運営事例　サポート隊（寺田）

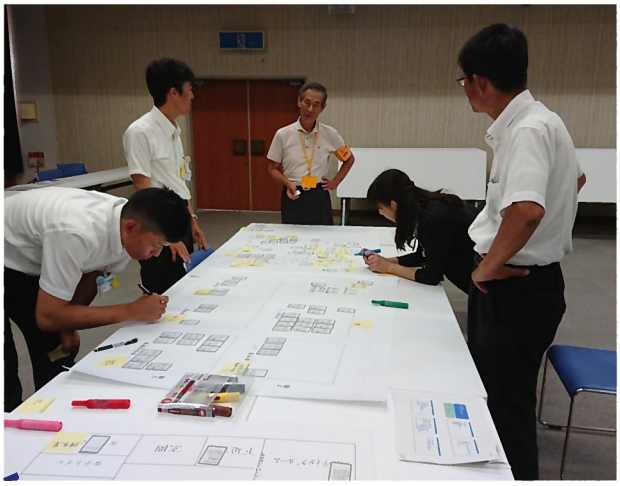
⑶ ＨＵＧ研修　５班　サポート隊（井上・榊原・寺田・林・元井・谷川）

１）ＨＵＧ前提条件等の確認

２）ＨＵＧ

３）まとめと意見交換

４）講評



４・令和元年度伊丹市防災図上訓練

１．依　頼　者　：　伊丹市

２．開　催　日　：　令和元年１０月２３日（水）

３．支 援 場 所　：　伊丹市防災センター

４．講演等の相手：

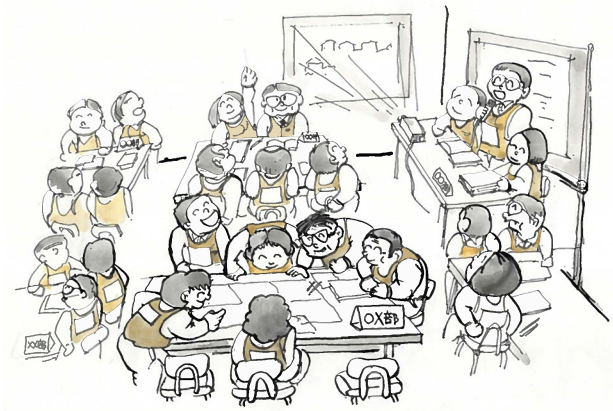
総括本部事務局(１７名)
対策部(１７名)　他部各４名程度　合計：５８名

５．総　括　者　：　井上俊廣

（ファシリテーター）釜谷正博・阪出裕昭

６．講 演 内 容　：

1. 上町断層帯地震を想定した初動対応について（井上）
   レジメと伊丹市地域防災計画及び同市防災ガイドブックの抜粋を配布し、市職員として知っておくべき知識・心得を確認
2. 図上訓練
   総括本部事務局、物資部・環境部（関係施設の現地調査）、調査部（付与条件地の現地巡回）、施設部・水道部（敷地内での給水等実地訓練）、避難部・援護部（講義）に分かれて訓練。
   サポート隊は総括本部事務局の発災直後の条件付与に対する対応訓練について助言



５・令和元年度明石市人丸地区防災訓練

１．依　頼　者　：　明石市人丸小学校コミセン

２．開　催　日　：　令和２年２月１６日（日）

３．支 援 場 所　：　人丸小学校体育館

４．講演等の相手：

事務局(９名)　総括本部(３２名)
対策部(４５名)　　合計：８６名

５．総　括　者　：　谷川俊男

（ファシリテーター）井上俊廣・榊原敏夫・寺田良幸・森脇康仁

６．講 演 内 容　：

１．ＨＵＧ訓練
⑴ 概要説明と準備
⑵ 訓練
⑶ まとめ
⑷ 意見交換
⑸ コメント

２．防災機材組み立て体験他

Ⅲ．防災啓発活動（防災マップづくり等支援）

自主防災組織の活性化を図り、地域の防災組織の向上を図る取り組みの一つとして、地域の人たちによる手作りの「地域防災マップづくり」や「DIG 訓練」、「ワークショップ」等を自治体や自主防災組織等、また、小学校の児童や教職員を対象に８地区において、９回の支援活動を実施しました。

※　DIG 訓練とは、災害（Disaster）の D、想像力（Imagination）の I、ゲーム（Game）の G の頭文字を取って名付けられた、誰でも行うことができ、誰でも参加できる簡易な災害図上訓練です。

実施地区一覧表

NO	開催日	事業内容	開催場所	担当
1	R1.12.08	宍粟市防災マップの作り方講習会（波賀町北部地区）	市民センター波賀	榊原　敏夫 今井　猛 窪田　彰 元井　賢一 森脇　康仁
2	R1.12.15	宍粟市防災マップの作り方講習会（波賀町南部地区）	市民センター波賀	谷田登志晴 高﨑　伸彦 寺田　良幸 林　健児 廣田　誠
3	R1.12.04	南あわじ市立榎列小学校教職員研修	榎列小学校	谷川　俊男 寺田　良幸
4	R1.12.22	宍粟市防災マップの作り方講習会（一宮町繁盛・三方地区）	センター三方	榊原　敏夫 阿山　耕三 井上　俊廣 釜谷　正博 阪出　裕昭 元井　賢一 森脇　康仁
5	R2.01.15	南あわじ市立賀集小学校防災学習	賀集小学校	釜谷　正博 相埜　利幸 谷川　俊男 寺田　良幸 林　健児 元井　賢一 森脇　康仁

6	R2.01.15	榎列小学校 DIG 学習	榎列小学校体育館	谷川　俊男 相埜　利幸 寺田　良幸 林　健児 元井　賢一 森脇　康仁
7	R2.01.19	宍粟市防災マップの作り方講習会（一宮町染河内・下三方地区）	一宮 保健福祉センター	谷田　登志晴 市川　和幸 今井　猛 窪田　彰 榊原　敏夫 廣田　誠 元井　賢一
8	R2.01.26	宍粟市防災マップの作り方講習会（千種町地区）	センター千種	林　健児 市川　和幸 榊原　敏夫 寺田　良幸 中村　誠 村上　和幸 森脇　康仁
9	R2.02.09	宍粟市防災マップの作り方講習会（一宮町神戸地区）	センター一宮	谷田　登志晴 相埜　利幸 阿山　耕三 今井　猛 林　健児 村上　和幸 元井　賢一

１・宍粟市防災マップの作り方講習会（波賀町北部地区）

１. 依　頼　者　：　宍粟市まちづくり推進部

２. 開　催　日　：　令和元年１２月８日(日)

３. 開 催 場 所　：　宍粟市市民センター波賀

４. 講演等の相手：

宍粟市波賀北部地区８自治会（１９名）

参加自治会：飯見、野尻、原有賀、原、日ノ原、音水、鹿伏、戸倉

宍粟市役所職員　５名　　合計２４名

５. 講　演　者　：　榊原敏夫

（ファシリテーター）今井猛・窪田彰・元井賢一・森脇康仁

６. 講 演 内 容 ：

（１）防災マップの作り方説明

（２）防災マップづくり作業

（３）各自治会発表

（４）まとめ

２・宍粟市防災マップの作り方講習会（波賀町南部地区）

１. 依　頼　者　：　宍粟市まちづくり推進部

２. 開　催　日　：　令和元年１２月１５日(日)

３. 開 催 場 所　：　宍粟市市民センター波賀

４. 講演等の相手：

宍粟市波賀南部地区７自治会（２２名）

参加自治会：谷、小野、安賀、斉木、有賀、上野、水谷

宍粟市役所職員　　５名　　合計　２７名

５. 講　演　者　：　谷田登志晴

（ファシリテーター）高﨑伸彦・寺田良幸・林健児・廣田誠

６. 講 演 内 容 ：

（１）豪雨災害について

（２）地区別防災マップづくり作業

（３）地区毎に作業成果（課題と対策）発表

（４）まとめ

３・南あわじ市立榎列小学校教職員研修（DIG）

１. 依　頼　者　：　南あわじ市立榎列小学校

２. 開　催　日　：　令和元年１２月４日（水）

３. 開 催 場 所 ：　榎列小学校

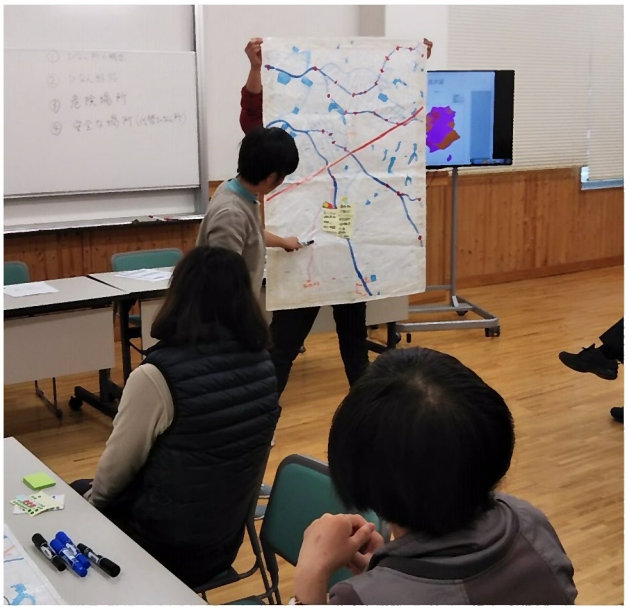
４. 講演等の相手：

　榎列小学校教職員　１９名

５. 講　演　者　：　谷川俊男
　　（ファシリテーター）寺田良幸

６. 講 演 内 容 ：

1.　講義「ＤＩＧ学習について」
2.　班別ワークショップ
（１）DIG　３班に分かれて南海トラフ巨大地震が午前７時３０分に発生したとして実施進捗に合わせたファシリテートとコメント　谷川・寺田
（２）避難所運営について　広域避難所の役割と可能性をテーマに地震発生後約９０分後に避難者が集まってくると仮定して対応を各班ごとに議論し発表　コメント　谷川



４・宍粟市防災マップの作り方講習会
（一宮町繁盛・三方地区）

１. 依　頼　者　：　宍粟市まちづくり推進部

２. 開　催　日　：　令和元年１２月２２日(日)

３. 開 催 場 所　：　宍粟市センター三方

４. 講演等の相手：

宍粟市一宮町繁盛・三方地区１２自治会（３６名）

参加自治会：三方町、森添、東公文、西公文、河原田、福野、上岸田、草木、千町、黒原、井内、倉床

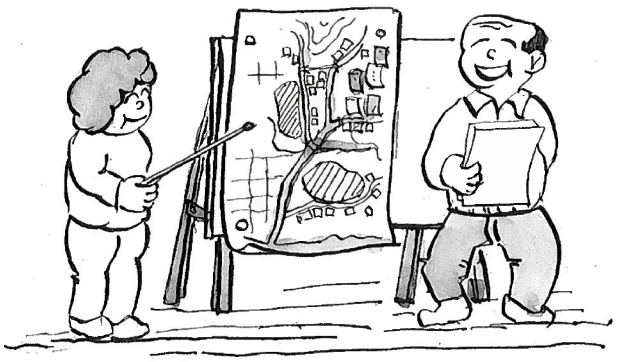
宍粟市役所職員　８名　　合計４４名

５. 講　演　者　：　榊原敏夫

（ファシリテーター）阿山耕三・井上俊廣・釜谷正博・阪出裕昭・元井賢一
森脇康仁

６. 講 演 内 容 ：

（１）防災マップの作り方説明
（２）防災マップづくり作業
（３）各自治会発表
（４）まとめ



５・南あわじ市立賀集小学校防災学習

１. 依　頼　者　：　南あわじ市立賀集小学校

２. 開 催 日 時　：　令和２年１月１５日（水）

３. 開 催 場 所　：　賀集小学校

４. 講演等の相手：

賀集小学校　６年生　３１名

５. 講　演　者　：　釜谷正博

（ファシリテーター）相埜利幸・谷川俊男・寺田良幸・林健児・元井賢一
森脇康仁

６. 講 演 内 容　：

1. 事前講義（南海トラフ地震について）
2. 防災学習
   地震の揺れにより、危険なものについての講習
   校内調査のやり方
   調査結果のまとめ方
3. 校内調査
4. 全校集会での調査結果の発表

６・南あわじ市立榎列小学校 DIG 学習

１. 依　頼　者　：　南あわじ市立榎列小学校

２. 開 催 日 時 ：　令和２年１月１５日（水）

３. 開 催 場 所 ：　榎列小学校体育館

４. 講演等の相手：

榎列小学校５年生（４２名）６年生（３１名）
父兄（２４名）教諭（１１名）
合計１０８名

５. 講　演　者　：　谷川俊男
（ファシリテーター）相埜利幸・寺田良幸・林健児・元井賢一・森脇康仁

６. 講 演 内 容 ：

1. 講和「DIG 学習と台風１９号」
2. DIG 学習
   対象災害　南海トラフ巨大地震（２０２０．１　午前7:３０発災）
   ①地区を知る　②災害の想像　③課題と対応　まとめ　④各班意見交流　⑤全体交流
3. 講評
4. 反省会

７・宍粟市防災マップの作り方講習会
（一宮町染河内地区・下三方地区）

１．依　頼　者　：　宍粟市まちづくり推進部

２．開　催　日　：　令和２年１月１９(日)

３．開 催 場 所　：　一宮町健康福祉センター

４．講演等の相手：
染河内地区７自治会・下三方地区５自治会（２９名）
参加自治会：本谷、中坪、山田、福田、能倉、
上野田、下野田
福中、福知、生栖、西深、深河谷
宍粟市役所職員　７名　　合計３６名

５．講　演　者　：　谷田登志晴
（ファシリテーター）市川和幸・今井猛・窪田彰・榊原敏夫・廣田誠・元井賢一

６．講 演 内 容 ：
（１）豪雨災害について
（２）地区別防災マップづくり作業
（３）地区ごとに作業成果（課題と対策）発表
（４）まとめ

８・宍粟市防災マップの作り方講習会（千種地区）

１. 依　頼　者　：　宍粟市まちづくり推進部

２. 開　催　日　：　令和２年１月２６日(日)

３. 開 催 場 所　：　センター千種

４. 講演等の相手：

宍粟市千種地区１１自治会（４１名）

参加自治会：千種、岩野辺、河呂、河内、西河内、室、七野、下川野、黒土、中島、鷹巣

宍粟市役所職員（７名）　　合計４８名

５. 講　演　者　：　林健児

（ファシリテーター）市川和幸・榊原敏夫・寺田良幸・中村誠・村上和幸
森脇康仁

６. 講 演 内 容 ：

（１）防災マップの作り方説明

（２）防災マップづくり作業

（３）各自治会発表

（４）まとめ

９・宍粟市防災マップの作り方講習会（一宮町神戸地区）

１. 依　頼　者　：　宍粟市まちづくり推進部

２. 開　催　日　：　令和２年２月９日(日)

３. 開 催 場 所 ：　センター一宮

４. 講演等の相手：
　宍粟市一宮町神戸地区１０自治会（３５名）
　参加自治会：曲里他
　宍粟市役所職員　７名　　合計４２名

５. 講　演　者　：　谷田登志晴
（ファシリテーター）相埜利幸・阿山耕三・今井猛・林健児・村上和幸
元井賢一

６. 講 演 内 容 ：
（１）豪雨災害について
（２）地区別防災マップづくり作業
（３）作業成果（課題と対策）発表
（４）まとめ

Ⅳ．防災啓発活動（尼ロック防災展示室特別公開支援）

兵庫県阪神南県民センター尼崎港管理事務所からの要請により、尼崎閘門（通称“尼ロック“）に設置されている防災展示室が、７月、８月の土曜日、日曜日、祝日に特別公開されたのに際し、その支援業務を行い、地域の子供たちなどの住民への高潮・津波などの災害に対する啓発への支援を行いました。

また、特別公開に先立ち６月２日に尼ロックにおいて行われた防災フェスティバルの支援を行いました。

１．依　頼　者　：　阪神南県民センター
　　尼崎港管理事務所

２．開 催 日 時　：　防災フェスティバル：６月２日（日）
　　特別公開：７月６～２８日
　　８月３～３１日
　　（期間中の土日祝日）

３．開 催 場 所　：　尼ロック防災展示室

４．参　加　者　：
防災フェスティバル：２２３名
（大人 153、中学生２、小学生 38、乳幼児 30）

特別公開　　：３９８名
（大人 143、中学生４、小学生２４、乳幼児４）

５．業務従事者：　総括：釜谷正博

相埜利幸・阿山耕三・市川和幸・井上俊廣・今井猛・窪田彰・榊原敏夫・阪出裕昭・髙﨑伸彦
髙橋伸明・谷川俊男・谷田登志晴・常友永市・寺田良幸・中村誠・西垣嘉夫・林健児・廣田誠
村上和幸・元井賢一・森脇康仁

６．活 動 内 容　：

防災フェスティバル支援
尼ロック防災フェスティバル開催中の防災展示室の案内業務

尼ロック防災展示室の特別公開支援
尼崎港管理事務所所管の尼崎閘門（通称尼ロック）に併設された防災展示室において、津波、高潮等の海岸防災意識高揚のための特別公開の案内業務

防災フェスティバルの様子

尼ロック防災展示室

防災フェスティバル(6月2日)のチラシ

特別公開の様子

特別公開チラシ

■尼ロック新聞記事

神戸新聞 2019年06月03日 月曜日 面名 阪神 14 18ページ

尼崎閘門で防災フェス
浸水被害防止の仕組み学ぶ
家族連れら220人参加

市街地の浸水を防ぐために設置された排水ポンプを見学する参加者たち＝尼崎市西海岸町

尼崎市の臨海部を高潮や津波から守る尼崎閘門（通称・尼ロック）をPRし、防災意識を高めてもらおうと2日、同市西海岸町で「尼ロック防災フェスティバル」が開かれた。家族連れなど約220人が、浸水から街を守る仕組みを学んだ。

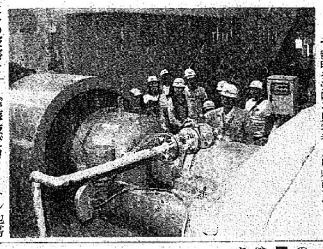
県尼崎港管理事務所が主催。同市内は約3分の1が海抜ゼロメートル地帯で、防潮堤などで市内を守る。尼ロックは防潮堤の内へ船を行き来させるために1955年に整備。二つの水門の開閉で、海と運河の水面の高さを調整している。今も1日当たり20～30隻の船が通過するという。

参加者は船で尼崎港を巡り、尼ロックを船が通過する仕組みを体験した。敷地内の防災展示室で閘門の仕組みや浸水予想マップなどに見入ったほか、近くにある東浜排水機場では、運河内に流れ込んだ雨水を海に排水するポンプの役割について、県職員から解説を受けた。

ポンプ場を見学した尼崎市立名和小6年の秋山幹太君（12）は「ポンプの大きさやエンジンの音は迫力があり、面白かった」と話していた。（山本 晃）

讀賣新聞　２０１９年６月３日（月）

尼ロック 仕組みにびっくり
防災フェスティバル



ポンプの性能や排水の仕組みについて説明を受ける見学者ら（尼崎市で）

津波や高潮による被害を防ぐ尼崎市西海岸町の「尼ロック」（尼崎閘門）で2日、防災フェスティバルが開かれ、親子連れが普段見られない防災施設の仕組みを学んだ。

尼崎市は市域の約3分の1が海抜ゼロメートル地帯で、尼ロックは海と運河の水位差を調整して船を通す日本最大級の閘門。高潮などによる海水の浸入を阻止する役割もあるほか、併設の東浜排水機場では市街地の雨水をポンプで海へ排水する。

この日は幅約17㍍の閘門の間を船で通って大阪湾の景色を楽しむ防災クルーズや、毎秒72㍑の水を排水できるポンプを間近で見るツアーがあり、見学者らは写真を撮ったり歓声を上げたりしていた。

尼崎市立武庫小6年の重本颯太くん（11）は「ポンプが大きくて驚いた。仕組みなどをもっと知りたいと思った」と言い、母喜与さん（47）も「街がこうやって守られているとは思わなかった」と驚いていた。

毎日新聞　２０１９年６月９日（日）

支局長からの目

海で我が町を思う

昨年は西日本豪雨や大阪台風の襲来で、水害対策の重要性を改めて痛感した方も多いことでしょう。本年は、人災の「南海トラフ地震による津波も警告されています。支局のある尼崎市は、市域の3分の1が海抜ゼロメートル地帯。災害対策の一端を知る術にしようと県阪神南県民センターに寄られ、初めて尼崎港へ行ってきました。尼崎港管理事務所が2日に開催したロックの防災フェスティバル「防災フェスティバル」です。同港は、水位を調整し船を安全に航行させるための施設「尼崎閘門」（愛称・尼ロック）がありません。初代が完成したのは1955年。50年のジェーン台風を受け、西岸部一帯の防潮堤と合わせた整備でした。現在は、隣接する集中コントロールセンターが操作・管理しています。普段、尼ロックに隣接した防災展示室の同港見学（予約制）ができますが、この日は施設全体を一般に公開。船上から尼ロックの閘門、通過を間近で見ることのできるクルーズに参加しました。

尼ロックは2カ所、それぞれ前扉（幅17㍍）があります。閘門はどちらもつくりで、あっと驚く光景ではなかったのですが「緑の十字」の力持ちに感動した思いでした。

尼崎港管理事務所は来月8日～31日の土日曜に2日、防災展示室を特別公開します（午前10時～午後4時、無料）。尼ロックの仕組みが平易に解説されています。同管理事務所長補佐の出口浩さんは「自分たちの街を守られている仕組みを分かっていただければ」と話してくれました。西日本豪雨から1年。「尼ロック」が、防災を考える場になればと願います。同事務所（06・6400・3338）。

◇

尼崎の海は、名作の舞台になってきました。特に私が好きなのは、歌舞伎・文楽の名作「菅原千本桜」の段。ラストシーンは何度見ても感動的です。もっとも、ここが現在の尼崎だと認識したのは恥ずかしながら最近のことで、もっと地元の歴史を知らねばと思っていたら、その大切さを伝える文章を知りました。書き手は4年前に亡くなった人間国宝の落語家、桂米朝さんです。

米朝さんは半世紀以上、尼崎市の武庫川荘地区で暮らしました。同地区の自治会（武庫川荘文化会）が、親睦とする武庫川荘文化会館のリニューアルで、館内に米朝さんの高座写真をお飾りしました。

武庫川荘文化会の取り組みを、米朝さんの思いを体現したものと受け止めるのでしょう。同文化会は今年で創設30周年。尼崎市による「文化都市」宣言の年に、自治会館がある名で活動しているのは珍しいとの事。地元の文化を愛する方々に感謝の意を表したいと思います。

除幕式後にあったトークイベントで、落語の落語家、桂米朝さんが紹介したのが「尼崎のイメージアップ」と題した米朝さんの生誕地・防災を考える場になればと願います。

東京ではいまだに尼崎が公害の町という印象を持たれている節もありつつ、尼崎にちなむ古典芸能作品の多くが新生産業の実績であることなどを列挙。八所市の「あの土地が、（略）あの公園は、むかし……」へえー、知らなんだ。こんな興味を関心を市民に持たせてくれたら、そんな思いが、その土地のイメージアップにつながってゆくのではないでしょうかと結ばれていました。地元を思いていた寄稿文和美市長も「すべて言い尽くしてくださっている！」と感激していました。

米朝さんの思いを体現したものというべきでしょう。同文化会は今年で創設30周年。尼崎市による「文化都市」宣言の年に、自治会館がある名で活動しているのは珍しいとの事。地元の文化を愛する方々に感謝の意を表したいと思います。

【阪神支局長・岸桂子】

讀賣新聞(8 月 28 日)

2019年(令和元年)8月28日(水曜日)　讀賣

街の生命線「尼ロック」
まちの宝物

自動形の扉が45㍍の尼崎閘門の閘門作業などを行う集中コントロールセンター（いずれも尼崎市で）

尼崎閘門
（尼崎市）

国内最大級の開閉式閘門で、「尼ロック」の愛称で親しまれてきた「尼崎閘門」（尼崎市西海岸町）は、台風襲来時などの高潮対策として、1955年に建設された。海抜0㍍地帯が市域の約3分の1を占める尼崎の街を災害から守り、安全な航路を確保してきた。（北口節子）

海面からの高さ5㍍超、幅17㍍の緑色の門がゆっくり開き、船が水路へと進んでいく。

門を見下ろす県尼崎港管理事務所の集中コントロールセンターでは、職員が目視で船を確認して、開閉のスイッチを押す。パナマ運河と同じ方式で、門内で水位を上げ下げして、海面との水位差をコントロールしている。

険しい扇形の扉は、開門時に徐々に広がる中央の隙間からの水流と、門扉が収納される凹弧による水流とが、打ち消し合うように作っていて、波が立たず、スムーズに船が門扉内に入っていけるという。

50年のジェーン台風では市域の約3分の1が浸水し、24万人超の市民が被害を受けた。県と国は、この教訓を教訓に西岸堤を防潮堤で囲み、工場などに製品や原料を運ぶ船の出入り口を確保するために建設した。

敷地内には、学習のための防災展示室も整備されており、平日は団体予約をすれば見学できる。8月の土日は特別公開されていて、隠れた観光スポットとして親子連れらの人気を集めている。

集中コントロールセンターでは、閘門の操作以外にも時間、水門などをカメラで確認して通過船が水路へと進んでいく。

24年前の阪神大震災では、第一閘門を開閉するワイヤが切れたが、駆けつけた職員が停電の中、手作業で扉を動かし、内陸部の水位上昇を食い止めることができた。

昨年9月の台風21号では、過去最高潮位となる3・53㍍の高潮が尼崎港に押し寄せ、ベテラン職員さえ「門が持ちこたえられるか」と不安を感じたという。

しかし、門が高潮を防ぎ、尼崎市の浸水被害は、臨海部の一部にとどまった。

＜きさきさに　思いをいたす　興人の　心も見えて　うれしきつつみ＞

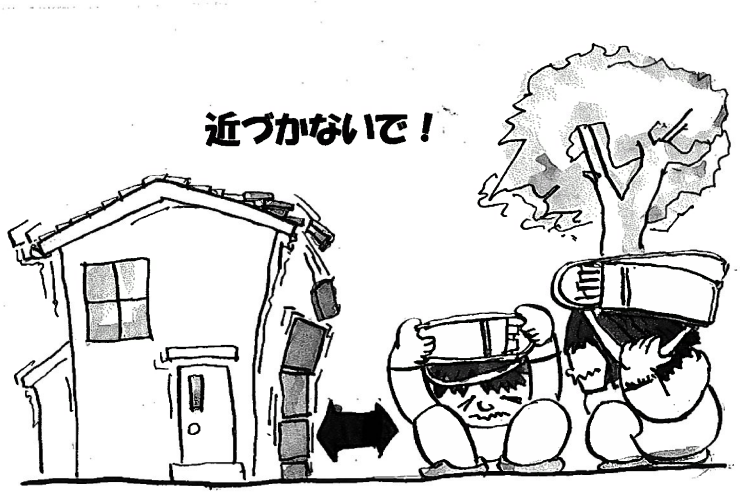
56年に詠まれた昭和天皇のご詠歌。防災と産業発展を担ってきた閘門は人街の生命線＞として、今日も尼崎を見守っている。

Ⅴ．その他の活動

当法人のメンバーが兵庫県内の市委員会で委員として、防災の普及啓発活動を行いました。

実施場所等

NO	開催日	事業内容	開催場所	参加者
1	R1.05.23 06.13 07.25 09.19 10.16 R2.02.05 03.30	加西市消防団あり方検討委員会 第３回 第４回 中間報告 第５回 第６回 第７回 報告書提出	加西市役所会議室	阿 山　　耕 三



１・加西市消防団あり方検討委員会

１．依　頼　者：　加西市危機管理課

２．開 催 日 時：　平成３１年５月２３日～
令和２年３月３０日
（第３回～第７回）

３．開 催 場 所：　加西市役所会議室

４．委　　員：　阿山耕三（副委員長）

５．主 な 議 題

■平成 30 年度の活動

第１回　平成３１年１月１８日（金）
・正副委員長選任
・消防団の現状確認について

第２回　平成３１年３月５日（火）
・消防団員の処遇について（報酬・手当）
・装備・資機材の充実について（自治会と市の負担のあり方
・消防団員の負担の軽減について

■令和元年度の活動

第３回　令和元年５月２３日（木）
・団員の適正定数・組織再編について
・消防団員の処遇について（報酬・手当）
・活動服・装備・資機材の充実について（自治会と市の負担のあり方）

第４回　令和元年６月１３日（木）
・団員の適正定数・組織再編について
・消防団員の処遇について（報酬・手当）
・活動服・装備・資機材の充実について（自治会と市の負担のあり方）
・中間報告について

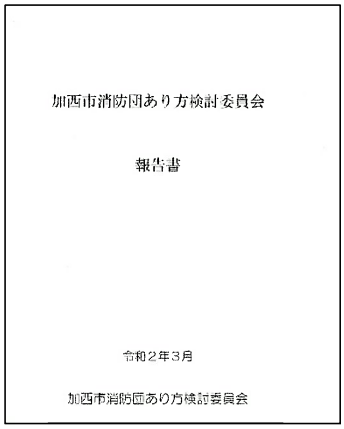
[加西市消防団あり方検討委員会中間報告　令和元年７月２５日（木）]

第５回　令和元年９月１９日（木）
・装備・資機材の負担割合について
・訓練等に係る活動内容について

第６回　令和元年１０月１６日（水）
・地域組織との関係性について
・機能別消防団について
・女性・OB 団員の地域人材の活躍機会の拡大について
・入団及び退団等の基準について
・災害時の活動等の取り組むべき課題について

第７回　令和２年２月５日（水）
・報告書（案）について

[加西市消防団あり方検討委員会報告書提出（市長へ）令和２年３月３０日（月）]


加西市消防団あり方検討委員会

報告書

令和２年３月

加西市消防団あり方検討委員会

私たちの

地域防災活動への

ご支援ご協力

ありがとうございました

今後ともよろしく

お願いします

特定非営利活動法人

ひょうご地域防災サポート隊

（平成１８年１月５日設立）

私たちは、NPO 法人「ひょうご地域防災サポート隊」を設立し、地域の人々に対して、安全安心のまちづくりの推進のため、その地域に合った防災・減災対策等についての様々なサポート活動を行います。

令和２年３月

理事長	井上　俊廣
副理事長	髙橋　伸明
理　事	釜谷　正博
同	窪田　　彰
同	阪出　裕昭
同	谷川　俊男
同	中村　　誠
同	林　　健児
同	廣田　　誠
同	森脇　康仁
監　事	榊原　敏夫
同	谷田登志晴
会　員	相埜　利幸
同	阿山　耕三
同	市川　和幸
同	今井　　猛
同	髙﨑　伸彦
同	常友　永市
同	寺田　良幸
同	西垣　嘉夫
同	村上　和幸
同	元井　賢一

ホームページ
https://support-tai.org/
（地域防災サポート隊で検索して下さい。）

連絡先
〒671-1511
兵庫県揖保郡太子町太田 463 番地 1
（廣田方）
Tel/Fax　0792（76）3907
E-mail　info@support-tai.org